

本研究室の北沢猛教授が去る12月22日にご逝去されました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

都市デザイン研究室一同

先生の追悼記事は追って掲載致します。

都市デザイン研究室忘年会 -2009年を盛大に締める The Bounenkai (a year-end party) 2009 for labmembers was held.

2009年の締めくくりとして恒例の都市デザイン研究室忘年会が開催され、大いに盛り上がりました。また一言コーナーにおいては、先生をはじめ様々な方々の含蓄あるお言葉に出席者一同、耳を傾けました。先生方の演説内容については今後特集を組んで掲載する予定です。

text_yamashita

The year-end party was held on 16th December at the Homeikan. Not only current labmembers but also many OB/OGs attended the party. At speech program, the ears of the participants were inclined to the words of various people including our teachers. We will feature their contents in the next magazine.

M1 熊谷 俊一

去る12月16日に毎年恒例・都市デザイン研究室忘年会がこちらも毎年恒例・本郷鳳明館で開催され、OBOGの方々を含め計80名以上の皆様に来ていただき、2009年の締めを盛大に執り行うことができました。普段交流の機会を持たない学生とOBOG、久しぶりの再会を喜ぶ同窓生、尊敬する先生方に一目して学生時代の情熱を取り戻す方々、など皆様の思い出に残る夜を過ごせたのではないのでしょうか。

私もコンパ係・忘年会幹事として今年初めて研究室の忘年会に参加させていただき、毎年恒例の一言コーナーの司会を務めさせていただきました。その中で、これだけの人数が集まるという研究室の人間関係の濃度、プロジェクト・教員活動・就職してからの業務など

の幅広い都市へのアクション、そして何よりデザ研メンバーのまちへの熱い情熱を肌で感じ取ることでき、これからの自分の研究室生活に刺激をもたらす実りある機会だったと思っております。

来年の忘年会も、元幹事としてはありますが、たくさんの方々に来ていただけるのを心よりお待ちしております。



▲窪田先生の演説に聞き入る一同



▲西村先生の演説

My Favorite Town in Tokyo - Yanaka D2 鄭一止



▲谷中の町並み ソウル北村の町並み▼



私にとって日本の代表的な町並みであり、また身近な存在でもある谷中について、ソウル北村(ブッチョン)と比較しながら少し語りたい。

道沿いに並ぶ町屋や長屋が多い谷中では、道路境界に低い生垣が配置されたり金網で仕切られる程度で、敷地の中と外という仕切りが比較的薄い。このように道沿いから植物、塀や垣根、その上から見える建物の断面まで、何枚かの表層が重なることによって、奥行きのある日本の町並みが見えてくる。

一方韓屋の場合は、敷地の境目に家の外壁や高い塀が並び、単層的な韓国の町並みを

創り出している。建築素材も土や木とともに石を多く使い、建物の基壇だけでなく外壁や塀などにも活かすことによって、より重厚感を感じさせる。

それにしても、両方のまち共に道には緑石や自転車などの生活用具がありふれている。さらに偶然道で会い一日中おしゃべりをしてしまうおばあちゃんの姿など、様々な要素がそこに住んでいる人の生活感を感じさせる。

※本記事は、「AnotherTokyo」(Darko Radovic, 2008)に南さんと一緒に掲載した谷中における論文を基に、韓国と比較しながら書いたものである。

D1 ナッタポン、マカオの学会に参加！ Nattapong participated in the AAHM 2009 conference.

12月1日から3日まで私はマカオで行われた2nd UNESCO-ICCROM Asian Academy for Heritage Management Conference(AAHM2009)に行ってきました。学会は「観光と都市遺産」というテーマで行われ、私は佐原のまちづくりについて、口頭発表を行いました。学会では、世界中から集まった都市遺産の観光に関する研究者や学生による激論が行われ、現在の佐原PJで観光に関わっている私にとって有意義な時間を過ごすことができました。

マカオはカジノの町というイメージが強いですが、中国に返還されたあと、中心市街地の歴史的地区を軸に観光産業を発展させてきました。主要な観光地以外にポルトガル風の建物や教会の間に織り込まれているマカオの路地も見所でした。世界中の研究者の議論も聞けて、マカオの町を堪能することもでき、今回の海外発表はとても充実した旅でした。



▲マカオの生活感が漂う路地

柏スタジオ講評会、これからが本番！ The final review of the Kashiwa Studio.

M1 黒川 佑人



▲二つの畑庭の模型

「柏たなかで新しいライフスタイルを送ることのできる都市を設計をする」というスタジオの最終講評会が12月25日にありました。私たち農地班は畑庭という農空間をきっかけとして、まちへの意識が異なる3層の住民たちが様々なカタチで関わることで、人と場所が結ばれる空間を提案しました。これまで議論を重ねてきた柏たなかにおける畑のあり方についてグループとして一つの解を出せたとは思いますが、講師陣からは「提案の説得力が足りない」「敷地内でデザインが完結してしまっている」などの更なる議論のきっかけとなる講評をして頂きました。1月30日には柏たなかの市民に向けたプレゼンもあるので、自分たちの中で提案を完結させず、市民の心に響くようなプレゼンをしたいと思っています。

プロジェクト報告 Project Reports

浅草 シャボン玉で子供たちと触れ合う

text_suzuki

振興会を住民の方に知ってもらおうと、11月28日にシャボン玉イベントを行いました。たくさんのお子様に来てもらい、まちおこしの第一歩が踏み出せたと思います。もう一つの振興会では、材木を使ったイベントを現在企画しており、材木屋さんの見学、ヒアリングなどを行っています。



神楽坂 キーワード集執筆終了！

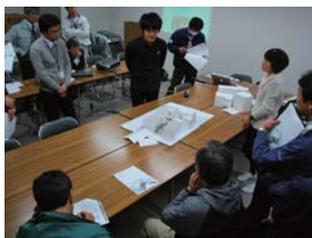
M1 神原 康介

この秋より月に一度開かれている、まちづくりルールWSに参加し、まちづくりルール案の策定に向けて、地元の方々と議論しました。また、地元で出版されるまちづくりキーワード集(来年発行予定!)に掲載する原稿を書き終えました！私が見開き1頁という分量の担当でしたが、わかりやすい文章にするため、七転八倒しながらなんとか執筆を終えました。「書く」ことは難しい…

鞆 ヨルトモ報告会&新メンバー加入！

空間研M1 阿南 隆史

初鞆の今回、「ヨルトモ報告会」に参加させて頂きました。学生報告の後、住民の方々と交えてWSを行い、まだ知られていない鞆の魅力、ヨルトモの運営方法など真剣な議論が行われ、大変有意義な場となりました。鞆を実際に歩いてみて様々な発見があり、貴重な体験になりました。今後とも真摯に取り組んでいきたいと思っています。



佐原 連携しよう、未来の佐原のために！

text_sakuraba

12月25日、香取市役所にて、空き家活用提案を行いました。「私たち3つの課の助成制度を組み合わせれば」という市役所の方の発言や、「次世代のこどものために」という所有者の方の思いを聞いたことが、私たちにとって何よりのクリスマスの贈り物となりました。



足助 空き家の活用提案発表

D1 王 新衛

12月8日、豊田市役所にて空き家の活用提案の発表を行いました。プレゼンでは「住民向け」と「観光向け」のそれぞれの立場から、2つの案を提示しました。プレゼンは無事終了し、市の職員の方々からは好意的な感想を頂いたと同時に、提案の実現に向けてアドバイスを頂きました。足助PJでは3月に足助全体での報告書を提出する予定です。

都市デザイン研究室 情報欄

おし
らせ

本研究室の卒業生であるリー・クウィン・チーさんが、12月より母国ベトナムのUniversity of Civil Engineeringの講師に就任されました！チーさんからメッセージが届いています！

I am very happy to inform that my application for job has been approved. From this December, I work officially as lecturer in Urban Planning Department, Faculty of Architecture and Urban Planning, University of Civil Engineering. I would like to express my thankful to all member of Urban Design laboratory.

1月の予定

- 1月6日 2009年度第12回研究室会議
- 1月13~15日 「観光と都市再生」国際ワークショップ
- 1月15日 2009年度第13回研究室会議
- 1月21~23日 足助PJ現地調査
- 1月30日 柏スタジオ市民向け発表会

編集後記

text_yamashita

気がつけば2009年も終わりに近づき、「師走」の名の通り12月も研究室は普段と変わらずあわただしい毎日。そんな中突然舞い込んだ北沢先生の訃報にただただ驚くばかりです。謹んでお悔やみ申し上げます。